

平成 18 年 度
老人保健健康増進等事業
による 研究 報告 書

平成 18 年 度

認知症介護研究報告書

〈認知症高齢者とその家族に対する生活支援と
ケアの質の向上に関する研究事業〉

社会福祉法人 仁至会

認知症介護研究・研修大府センター

まえがき

認知症介護研究・研修大府センターでは、平成18年度の研究事業の課題を「認知症高齢者とその家族に対する生活支援とケアの質の向上に関する研究事業」として、その中では、さまざまな観点から9課題の研究を進めてきました。これらは平成16年度から継続して行なっているものであり、認知症の方やその家族、また介護に携わる方々からの具体的な提案や要望を元にしたものです。

「大都市における認知症高齢者を地域で支えるシステムづくり」モデル事業においては認知症を地域で支えるネットワークづくりが3年目となり、少しずつ成果が現れています。

「健常高齢者の認知機能と生活実態に関する研究」は、大府センターで開発した新しい認知機能検査を応用して、認知症と生活習慣との関連をみた調査で、今後の認知症予防や早期発見に役立つものです。

介護の現場で欠かせないコミュニケーションに関しては、「認知症患者のQOL ～コミュニケーション能力との関連～」と、「認知症における知的機能とコミュニケーション機能ー言語性、及び非言語性コミュニケーション情報認知機能ーに関する研究」の2課題で取り上げ、今後も継続して追及すべき大きなテーマと考えています。

「アルツハイマー病患者の前頭葉機能と行動障害、ADLの関係」では、アルツハイマー病の非薬物療法における意欲や関心の改善効果を客観的に測定するツールとして、前頭葉機能を評価するFrontal Assessment Battery (FAB) が利用できる可能性が示唆されました。さらに、「認知症高齢者への心理的援助としての回想法の効果に関する研究」では、個人回想法が対象者の自己像に肯定的な影響を与えることがわかり、「認知症高齢者のEvidence Based Care」では、3年間の研究成果として、標準的ケアを示した施設配布用のカラーパンフレットとポスター様式の壁掛け表を作成して、関係機関に配布しました。

「病院における認知症高齢者の家族支援方法の検討ー自宅から入院した患者家族が施設入所を選択する要因の分析ー」では、認知症患者の家族介護者にとって、患者の身体的要因や精神的要因が大きく影響するのではなく、家族介護者を取り巻く環境が大きく影響していることが示唆されました。

認知症の方の運転能力の問題は近年大きな社会的関心事であり、交通事故や認知症の方のQOLの観点からも重要で、大府センターでも中心的な研究課題のひとつとして取り組んでいます。今年度は、「都市部における認知症高齢者の運転能力評価に関する研究」を行なって、認知症の家族や介護関係者の意見を集約、分析し、さらにドライビング・シミュレーターを用いた実験も行いました。

以上のように多くの大学や研究機関、介護福祉施設及び関係者の方のご協力を得て、この研究報告書を作成することができました。関係者のかたがたに心より感謝いたします。

これらの成果が認知症の方やその家族、また介護に携わるすべての方のお役に立つことを願ってやみません。

平成19年3月末日 認知症介護研究・研修大府センター
研究部長 小長谷 陽子

目 次

平成18年度研究成果

- 1) 「大都市における認知症高齢者を地域で支えるシステムづくり」モデル事業…………… 1
主任研究者 柴山 漢人（認知症介護研究・研修大府センター）
分担研究者 黒川 豊（名古屋市千種区黒川医院）
研究協力者 檜尾 富二（名古屋市千種区医師会長）
小長谷陽子（認知症介護研究・研修大府センター）
上松 正幸（名古屋市千種区池下やすらぎクリニック）
渡辺 智之（認知症介護研究・研修大府センター）他

- 2) 健常高齢者の認知機能と生活実態に関する研究 ……………19
主任研究者 小長谷陽子（認知症介護研究・研修大府センター 研究部長）
分担研究者 渡邊 智之（認知症介護研究・研修大府センター 研究員）

- 3) 認知症患者のQOL ～コミュニケーション能力との関連～ ……………39
主任研究者 川合 圭成（名古屋大学大学院医学系研究科神経内科学）
研究協力者 末永 正機（名古屋大学大学院医学系研究科神経内科学）
武田 章敬（国立長寿医療センターアルツハイマー型認知症科）
相原 喜子（認知症介護研究・研修大府センター）
上田 隆憲（名古屋大学医学部神経内科）
堀部賢太郎（小山田記念温泉病院神経内科）
小長谷陽子（認知症介護研究・研修大府センター）
川村 陽一（社会福祉法人青山里会，医療法人社団主体会）
祖父江 元（名古屋大学大学院医学系研究科神経内科学）

- 4) アルツハイマー病患者の前頭葉機能と行動障害、ADLの関係 ……………45
主任研究者 武田 章敬（国立長寿医療センター 第一アルツハイマー型
認知症科医長）
研究協力者 鷺見 幸彦（国立長寿医療センター 外来診療部長）
山岡 朗子（国立長寿医療センター 神経内科 医員）
加藤 隆司（国立長寿医療センター 脳病態生理研究室長）
伊藤 健吾（国立長寿医療センター 長寿脳科学研究部長）
小長谷陽子（認知症介護研究・研修大府センター 研究部長）
川合 圭成（名古屋大学大学院医学研究科神経内科学 医員）
祖父江 元（名古屋大学大学院医学研究科神経内科学 教授）

- 5) 認知症高齢者への心理的援助としての回想法の効果に関する研究51
- 主任研究者 小長谷陽子 (認知症介護研究・研修大府センター)
- 分担研究者 鈴木 亮子 (認知症介護研究・研修大府センター)
- 研究協力者 高田 育子 (グループホーム 百の木東海)
- 長谷川久美 (グループホーム ルミナス大府)
- 6) 認知症における知的機能とコミュニケーション機能61
- －言語性、及び非言語性コミュニケーション情報認知機能－に関する研究
- 主任研究者 小長谷陽子 (認知症介護研究・研修大府センター)
- 分担研究者 相原 喜子 (認知症介護研究・研修大府センター)
- 研究協力者 中村 昭範 (国立長寿医療センター)
- 小笠原昭彦 (名古屋市立大学看護学部)
- 井上 豊子 (老人保健施設ルミナス大府)
- 7-1) 認知症高齢者のEvidence Based Care –認知症の介護指針作成の試み－67
- 主任研究者 杉村 公也 (名古屋大学医学部保健学科)
- 分担研究者 清水 英樹 (名古屋大学医学部保健学科)
- 研究協力者 小酒部聡江 (東芝林間病院)
- 川村 享平 (介護老人保健施設ミズホ)
- 小長谷陽子 (認知症介護研究・研修大府センター)
- 7-2) 認知症高齢者におけるADL上の問題行動と標準的介護
－認知症の重症度との関連から－77
- 主任研究者 杉村 公也 (名古屋大学医学部保健学科)
- 分担研究者 清水 英樹 (名古屋大学医学部保健学科)
- 研究協力者 小長谷陽子 (認知症介護研究・研修大府センター)
- 8) 病院における認知症高齢者の家族支援方法の検討
－自宅から入院した患者家族が施設入所を選択する要因の分析－91
- 主任研究者 大山 宣子 (国立長寿医療センター)
- 分担研究者 日比野千恵子 (国立長寿医療センター)
- 浅井 紫 (国立長寿医療センター)
- 浜島 愛子 (国立長寿医療センター)
- 百武 悦子 (国立長寿医療センター)
- 本田 恵子 (国立長寿医療センター)
- 大久保直樹 (国立長寿医療センター)
- 鈴木みずえ (三重県立看護大学)

研究協力者 野上 宏美 (国立長寿医療センター)
河合多喜子 (国立長寿医療センター)
服部 英幸 (国立長寿医療センター)
鷺見 幸彦 (国立長寿医療センター)

9) 都市部における認知症高齢者の運転能力評価に関する研究……………101

主任研究者 小長谷陽子 (認知症介護研究・研修大府センター 研究部長)
分担研究者 渡邊 智之 (認知症介護研究・研修大府センター 研究員)
研究協力者 尾之内直美 (認知症の人と家族の会 愛知県支部 代表)
向井 希宏 (中京大学心理学部 教授)
宮尾 克 (名古屋大学 情報連携基盤センター 教授)
長谷川 聡 (名古屋文理大学 情報メディア学科 助教授)
藤掛 和広 (認知症介護研究・研修大府センター 研究員)
柴山 漠人 (認知症介護研究・研修大府センター センター長)